

ヤリ才便り

一月号

— 2023 —



謹賀新年

ダイオウマツ・ナチマツ・ナンテン・バックステリア

明けましておめでと〜いございます。



雪国秋田で、毎年思うのはこの雪の下には、花たちの小さな芽が時が来るのをじっと耐えて待っているんだという、自然の営みの強さを教えられます。

さて、先日本当に久しぶりに六本木ヒルズにあるサントリー美術館に行ってきました。

「京都智積院の名宝展」全国に末寺が、約三千を擁する真言宗智山派の総本山智積院は弘法大師空海に始まる真言教学の正統な学風を今に伝える寺院で、秀吉の夭折した息子鶴松の菩提を弔うため祥雲禅寺に置かれた国宝です。

長谷川等伯一門による作品群は、寺外で初となる公開でした。秘蔵する名宝に囲まれると、桃山時代の純蘭豪華な抒情美に、時間、空間がタイムスリップしたような感覚になったのでした。

最も心魅かれた作品は、長谷川等伯の長男である長谷川久蔵作「桜図」

鶴松の三回忌に先立って二十六才で逝去した点など、謎を残しているようです。

等伯父子としての最後の共同制作となったのでした。

作品に描かれている桜の花達は実際の花よりも数倍も大きく観るものに生きて迫ってくるようで、ピンク色の桜ではなくて、ほとんど白い花びらに埋め尽くされ、純粋な桜の生命力が現れていてシンフォニーが聴こえるようでした。

何とも、等伯の無念さが伝わる桜図の前でしばらく離れられないひと時でした。

恒例である美術展の図録「重たいのがつらい」を買い込んで来てお正月の楽しみに

浸るとします。皆様におかれましては今年も喜び多い年になりますように。

気持ちちはしなやかに、元気を出してうさぎ年を出発です。

ご健勝心よりお祈り申し上げ年の始めのご挨拶を申し上げます。

令和五年一月一日

(株)

ヤリ才



松本幸子様

